

学長定例記者会見要項

日 時： 令和7年6月5日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 東北初の連携派遣 ウズベキスタンへ5年間山形大学 × JICA ウズベキスタン連携派遣プログラム始動～中央アジアへの国際貢献と人材の育成を両立～
2. 登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関として登録決定～国家資格「登録日本語教員」を目指す学生に向けた養成プログラムの開始～
3. 超小型人工衛星（ベニバナ・サット）プロジェクト立ち上げ！～「山形の産業へ」「山形に人材を」「山形を元気に」～
4. 地域の子どもたちの「今」を応援する「YU★STEAM サポーター」募集のご案内～日新製薬株式会社とアイジー工業株式会社が初のサポーターに～
5. 2025年大阪・関西万博の展示に研究成果が導入～「もっとグッスリ(More IoT for good sleep)」に眠りやすい照明や香りが採用～

お知らせ

1. 山形大学オープンキャンパス 2025 の開催について
2. 小学校理科の教育プログラム－スキルアップ講座－を実施します
3. 山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー『介護と仕事、両立のヒント～未来の自分と大切な人のために～』を開催します
4. 有機薄膜・ペロブスカイト太陽電池に関する書籍の発刊について～本学教員が監修や執筆に協力、サステナブルエレクトロニクス実現へ～
5. 宇宙探査機の太陽光反射性能に対するダスト付着の影響を解明～地上実験と理論計算によりラジエーターに付着したダストの影響を定量的に把握～

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和7年7月3日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（6月5日）発表

1. 東北初の連携派遣 ウズベキスタンへ5年間 山形大学 × JICA ウズベキスタン連携派遣プログラム始動～中央アジアへの国際貢献と人材の育成を両立～

独立行政法人国際協力機構 東北センター所長

独立行政法人国際協力機構 東北センター 地域連携アドバイザー

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター 副センター長

はなだて	だいみん	
花立	大民	
きくち	かずひこ	
菊地	和彦	
すがおい	たつひと	准教授
菅生	達仁	

2. 「登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関として登録決定～国家資格「登録日本語教員」を目指す学生に向けた養成プログラムの開始～

山形大学国際交流推進機構・副機構長

山形大学国際交流推進機構・日本語教育部門

うつみ	ゆみこ	
内海	由美子	教授
いまいづみ	さとこ	准教授
今泉	智子	

3. 超小型人工衛星（ベニバナ・サット）プロジェクト立ち上げ！～「山形の産業へ」「山形に人材を」「山形を元気に」～

山形大学学術研究院（寄附講座「ソーシャルイノベーション DX」）

山形大学学術研究院（工学部主担当）

山形大学学術研究院（工学部主担当）

かめい	しんいち	
亀井	信一	教授
よこやま	みちお	
横山	道央	教授
はらだ	ともちか	
原田	知親	助教

4. 地域の子どもたちの「今」を応援する「YU★STEAM サポーター」募集のご案内～日新製薬株式会社とアイジー工業株式会社が初のサポーターに～

学術研究院教授（理学部主担当）、地域共創 STEAM 教育推進センター（統括責任者）

地域共創 STEAM 教育推進センター、プロジェクト教員（講師）

日新製薬株式会社 総務部長

アイジー工業株式会社 代表取締役社長

くりやま	やすなお	
栗山	恭直	教授
あだち	あかね	
安達	茜	
くにい	ともひで	
国井	知秀	
もり	やすひろ	
森	安弘	

5. 2025 年大阪・関西万博の展示に研究成果が導入～「もっとグッスリ (More IoT for good sleep)」に眠りやすい照明や香りが採用～

山形大学学術研究院（工学部主担当）

やまうち	やすき	
山内	泰樹	教授

令和7年（2025年）6月5日

東北初！JICA海外協力隊大学連携派遣覚書締結 山形大学 × JICA ウズベキスタン連携派遣プログラム始動 ～中央アジアへの国際貢献と人材の育成を両立～

【本件のポイント】

- 2025年6月5日（木）、国立大学法人山形大学と独立行政法人国際協力機構（JICA）東北センターは、ウズベキスタンにおける起業家・経営人材の育成を目的としたJICA海外協力隊連携派遣プログラムの覚書を締結した。
- 東北地区では初めての試みで、2031年3月までの5年間、JICAが海外協力隊として実務経験や専門性を持つ人材を派遣し、ウズベキスタン日本人材開発センター（UJC）と共に、現地の雇用創出と地域経済の活性化を支援するもの。



【概要】

国立大学法人山形大学と独立行政法人国際協力機構（JICA）東北センターは、ウズベキスタンにおける起業家・経営人材の育成を目的とした JICA 海外協力隊連携派遣プログラムの覚書を締結した。これはウズベキスタンを対象に、2031年3月までの5年間、本学からの推薦に基づき、JICA が海外協力隊として実務経験や専門性を持つ人材を派遣し、ウズベキスタン日本人材開発センター（UJC）と共に、現地の雇用創出と地域経済の活性化を支援するものである。

- ・対象国：ウズベキスタン共和国
- ・現地連携先：ウズベキスタン日本人材開発センター（JICA・現地政府共同運営）
- ・派遣形態：青年・シニア海外協力隊（長期1～2年／短期1～2ヶ月）
- ・派遣開始予定：2026年4月（長期）・2026年9月（短期）

【背景と目的】

IMF 推計値において、ウズベキスタンの失業率は2022年8.9%、雇用機会が労働人口増に追いつかず2018年以降、高い失業率（10%程度）が継続している。この課題に対処するために、同国では既存産業の収益力を高めることや起業を通じて雇用機会創出に努めており、取り組みの効果を上げるために、教育を通じて質の高い経営者を輩出することを目標としている。本派遣では、現地起業家・経営層を対象に、実践的なビジネス教育と伴走支援を実施し、持続的な産業人材の育成を図ることにしている。

【山形大学にとっての意義】

- ・国際教育の強化：山形大学国際化戦略における基本方針にある「グローバル体験プログラムを拡充する」に寄与し、さらに「多様なグローバル体験プログラムへの参加によって留学への動機づけ」を見込める。
- ・地域課題解決力の展開：山形県が本学アントレプレナーシップ教育研究センターと共に、2022年度から最上地区で実施し新事業創出に成果を上げている「Yamagata yori-i project」の手法を中央アジアへ展開。研究・教育双方に波及効果を見込む。
- ・学生の成長機会の創出：人口増・所得増が進む山形県とは“真逆の社会環境”で、多様な価値観・問題解決力を習得できる実践型教育機会を提供できる。

【今後のスケジュール（予定）】

- 2025年 6月 JICA との覚書締結
- 2025年 11月 学内説明会・募集開始
- 2026年 4月 JICA 海外協力隊長期派遣開始
- 2026年 9月 短期派遣開始

お問い合わせ

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター 副センター長 菅生
Email : tsugaioi@cc.yamagata-u.ac.jp Tel : 023-628-4075

JICA大学連携派遣の概要サマリー

JICA連携派遣とは？

国際協力機構（JICA）が、連携先（山形大学）が提案した案件を実施すべく、海外協力隊員を採用し派遣する仕組み。

協力隊員を派遣するのは誰？

連携先（山形大学）が推薦した者をJICAが採用し派遣をする。渡航費・滞在費・生活費はJICAが支給し、派遣前の訓練もJICAが行う。派遣中は日常から緊急時の対応もJICAが担う。

派遣対象になるのは誰？

20歳～69歳までの日本国籍を有し且つ山形大学が推薦する者。海外経験を志す学生・院生・教職員、学外で有望な個人が対象。但し、経験や専門性を使った貢献が求められることから、特に長期派遣者には該当分野での実務経験があると望ましい。

山形大学がウズベキスタンへ貢献をするメリット

- 現地大学との連携：連携派遣を通じ学生や院生がウズベキスタンでの留学に興味を持った場合、留学機会を提供できる可能性がある。
- 認知向上：ウズベキスタンの大学と関係性を構築できている日本の大学は少なく（帝京大学と東京通信大学はタシケント大学等と学術協定を締結している）、本JICA事業を通じて山形大学が代表的な大学として認知されるポテンシャルがあり、認知向上によりウズベキスタンから留学を希望する優秀な学生を見込める。
- 地域課題の解決：地域課題解決をテーマとする地域教育文化学部や社会共創デジタル学環の教員や学生・院生に研究シードを提供できる可能性がある。
- 学生の成長：ウズベキスタンは、人口が2023年に約71万人増加している（日本は55万人減少）。平均所得は毎年10%ずつ増加し（日本は1%ずつ増加）、日本とは真逆の環境である。真逆の環境であるからこそ、派遣された学生等に多様な発想が身に着くことを期待でき、その発想が身に着いた学生が、学業において新しい成果をもたらしてくれることが期待できる。
- 注目エリアのステージを提供：ウズベキスタンを核とする中央アジア5か国は日本政府も注目をするエリアであり（2023年に1兆円の投資を発表）、岸田前総理も訪問を具体的に計画した場所である（2024年1月に訪問予定であったが、自民党裏金問題で訪問をキャンセル）。日本政府が注目し且つ今後発展が期待できるエリアに、貢献を通じて人脈を構築できる。

協力隊員はどんな仕事をするの？

- 起業家及び小規模事業経営者育成プログラムに関わるニーズ調査、プログラムの企画及び同実施。
- 地域におけるステークホルダー（自治体、企業、団体、個人等）と一つになり、その地域の課題解決への取組。

誰と一緒にやるの？

ウズベキスタン共和国投資産業貿易省とJICAが2000年に設立したウズベクスタン日本人材開発センターと一緒に活動する。

派遣はいつから始まるの？

長期派遣者は最短で2026年1月からJICAによる訓練が1カ月間始まり、2026年4月頃に派遣される。短期派遣は最短で2026年9月からの派遣。

派遣期間はどれくらい？

- 長期と短期の派遣があり、長期派遣は1年～2年、短期派遣は1か月～2か月。
- 短期派遣は長期で派遣される者を補佐する役割のため、長期派遣者がいて短期派遣が可能になる。

なぜ大学として取り組んだ方が良いの？

- 本学の国際交流においてJICAは重要なパートナーであるため。
- 山形大学国際化戦略における基本方針1)にある「グローバル体験プログラムを拡充する」に寄与し、同②にある「多様なグローバル体験プログラムへの参加によって留学への動機づけを行う」へ貢献できる。

山形大学における体制は？

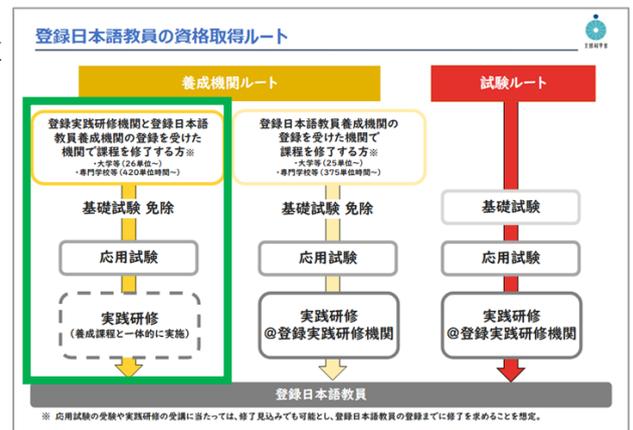
アントレプレナーシップ教育研究センターがJICAとの窓口及び学内への告知を担い、さらに応募を希望する学生から推薦対象者を選びJICAへ推薦する役割も担う。国際交流課はアントレセンターへの協力を行う。推薦された者を採用し、訓練そして派遣、現地での監督責任を担うのはJICA。

令和7年（2025年）6月5日

登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関として登録決定 ～国家資格「登録日本語教員」を目指す学生に向けた養成プログラムの開始～

【本件のポイント】

- 「登録日本語教員」は外国人に日本語を教える日本語教師の国家資格。「日本語教育機関認定法」（令和6年4月1日施行）に基づく。
- 山形大学は令和7年2月に申請。5月30日にその結果が公表され、登録機関となった。
- 令和7年度後期から令和7年度以降の入学生を対象に、「山形大学日本語教員養成プログラム」を開始。
- 「養成機関ルート」として、登録日本語教員試験の基礎試験が免除、実践研修も養成プログラムで実施される。



【概要】

山形大学は「日本語教育機関認定法」（正式名称「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」）に基づく登録実践研修機関及び登録日本語教員養成機関として登録が決定しました。国家資格「登録日本語教員」を目指す学生向けの養成プログラムを令和7年度後期から開始します。

外国人散在地域であるとともに日本語教育資源に乏しい山形県でも、労働者を中心とした在留外国人の増加と多様化が進んでいます。この状況下、日本語教員を養成する県内唯一の機関として、量的・質的に日本語教育人材を充実させることは本学の3つの使命「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」において喫緊の課題です。

「山形大学日本語教員養成プログラム」では、外国人に対して質の保証された日本語教育を行うことのできる教員を輩出すること、その教育実践によって外国人が自立した言語使用者となり地域社会の発展に貢献できるようになること、さらには、その働きかけによって日本人が外国人理解の重要性和対話の必要性を認め実践するようになることを目指します。その先にある共生社会、すなわち「安全に安心に暮らせる社会」「多様性に富んだ活力ある社会」「個人の尊厳と人権を尊重した社会」の実現に資することを本プログラムの理念としています。

本学のプログラムを修了すると基礎試験が免除されます。また、実践研修も一体的に受けることができるため、応用試験に合格すれば登録日本語教員の資格が取得できます。認定日本語教育機関で働くことができるほか、将来的には、外国人を雇用する企業等の採用に際して優遇され、様々な場での活躍につながることも期待されます。

【プログラムの概要】

【構成】 「養成課程」 必修9科目17単位＋選択必修科目4科目8単位・「実践研修」 必修1科目2単位

「養成課程」「実践研修」の必修科目10科目、選択必修科目4科目を履修し27単位を取得することを修了要件とする

【定員】 各学年24名（定員に満たない場合、科目等履修生も受け入れる）

【開始】 令和7年度後期（9月29日）

【対象】 令和7年度入学生より対象（学生向け説明会及び申込方法等の詳細は8月上旬ごろHPにて案内予定）

【参考】 登録日本語教員についての詳細は文部科学省HP「日本語教育」参照

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_p.htm

お問い合わせ

学術研究院 教授 内海由美子（学士課程基盤教育院 主担当）

TEL：023-628-4932 メール：yutsumi@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関としての登録決定

国家資格「登録日本語教員」を目指す学生に向けた「山形大学日本語教員養成プログラム」の開始

国際交流推進機構 内海由美子、今泉智子

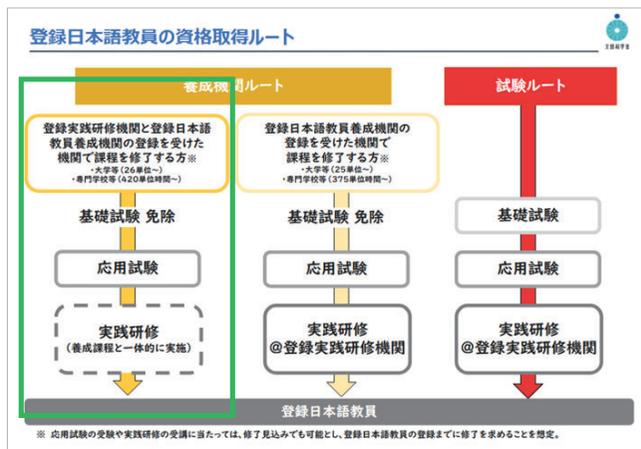
登録日本語教員とは？

日本語非母語話者(≒外国人)に日本語を教える**日本語教師の国家資格**「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」(=日本語教育機関認定法、2024年4月1日施行)に基づく。

- ◆文部科学省に登録される
- ◆専門性を証明することになる
- ◆認定日本語教育機関で教えることができる
- ◆外国人を雇用する企業等の採用に際して優遇されると期待できる
- ◆国内外の様々な場での活躍につながると期待できる

国家資格「登録日本語教員」への対応について

- ◆山形大学は、2025年2月に「登録実践研修機関」「登録日本語教員養成機関」の登録を申請し5月末に決定
- ◆2025年度後期からプログラムを開始
- ◆基礎試験が免除される**緑のルート**での資格取得が可能に



山形大学が日本語教員を養成する背景と意義

- ◆外国人散在地域で日本語教育資源に乏しい山形県
 - 「常勤の日本語教師」7人 ←全国最下位
 - ボランティアの割合は約71% ←全国4位、ボランティア依存の実態
 - 文部科学省「国内の日本語教育の概要」(2023年11月1日現在)
- ◆労働者を中心とした外国人の増加、多様化、定住化が進行
 - 10,535人(2024年末現在)対前年比増加率13% ←全国平均を上回る
 - 外国人労働者数6,661人(2024年10月末現在)
- ◆日本語教員を養成する県内唯一の機関として、量的・質的に日本語教育人材を充実させることは喫緊の課題

山形大学日本語教員養成プログラムの目的と理念

◆目的

質の保証された日本語教育を行うことのできる教員を輩出する

その教育実践によって、外国人が自立した言語使用者となり、地域社会の発展に貢献できるようになる

その働きかけによって、日本人が外国人理解の重要性と対話の必要性を認め実践するようになること

◆理念

「安全に安心して暮らせる社会」「多様性に富んだ活力ある社会」「個人の尊厳と人権を尊重した社会」の実現に資すること

外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」(2024年6月)

5

山形大学日本語教員養成プログラムの目標

3つ言語教育観を有する教員を養成する。

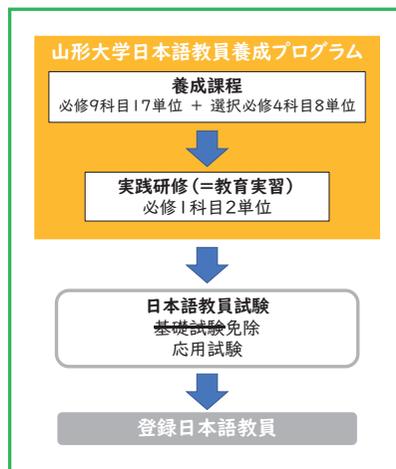
- (1) 日本語学習者を社会的存在として捉える
- (2) 言語を使って「できること」に注目する
- (3) 多様な日本語使用を尊重する

「日本語教育の参照枠-報告」(文化審議会国語分科会2021:6)

そのための知識・技能・態度、自らの教育実践を評価し日本語教員として成長し続けようとする姿勢、日本人に働きかけ外国人とのコミュニケーションに必要な日本語調整能力の向上を促す姿勢の獲得を目標とする。

6

山形大学日本語教員養成プログラムの目指す全体の流れ



7

登録機関に求められるカリキュラム等

登録日本語教員実践研修・養成課程コアカリキュラム

日本語教師【養成】に求められる資質・能力が記述され、50のコアカリキュラムが定められている

「登録日本語教員実践研修・養成課程コアカリキュラムを中心に据えた実践研修や養成課程を実施すること」

コアカリキュラムの例:「日本の在留外国人施策」「日本語の試験」「社会言語学」「日本語の学習・教育の情意的側面」「コースデザイン」「教材分析・作成・開発」「著作権」「社会文化能力」

養成課程375単位時間／25単位以上(1単位時間=45分)

実践研修45単位時間／1単位以上

教壇実習「5人以上の生徒に対して同時に行われる」「通常の日本語教育課程の一部又は相当する実施形態であるものに限る」「受講者1人につき45分以上の授業」「単独で2回以上行う」

8

山形大学日本語教員養成プログラムの概要

- 運営** 国際交流推進機構が管理、同機構日本語教育部門が運営
- 科目の構成** 学士課程基盤教育院、人文社会科学部、地域教育文化学部で開講する科目
- 開始** 2025年後期(9月29日)
- 対象** 2025年度入学生より
- 定員** 1学年あたり24人(定員に満たない場合は科目等履修生を受入れ)
- 修了要件** 必修科目9科目、選択必修科目4科目、実践研修1科目
合計14科目を履修し、27単位を取得すること

9

開設予定科目一覧

養成課程 必修科目	1	日本語教育学概論	2単位
	2	日本語教育学演習	2単位
	3	実践!多文化コミュニケーション	2単位
	4	外国語としての日本語	2単位
	5	日本語教育学基礎演習1	2単位
	6	日本語教育学基礎演習2	2単位
	7	日本語教育学特殊講義1	2単位
	8	日本語教育学特殊講義2	2単位
	9	日本語授業見学	1単位

10

養成課程 選択必修科目 4科目以上選択	1科目選択	10	言語学演習2	2単位
		11	日本語文法概論	2単位
		12	日本語学概論	2単位
		13	国語学概論I	2単位
		14	ことばの仕組み2	2単位
	1科目選択	15	第二言語習得論概論	2単位
		16	日英対照言語学入門	2単位
		2科目選択	17	地域政策論2
	18		移民社会における多文化共生	2単位
	19		人間の共生とグローバリズム	2単位
	20		日本人とは何かー山形を例に	2単位
	21		地域の外国人支援を考える	2単位
実践研修 必修科目	22	多文化共生論	2単位	
	課題演習(日本語教育)		2単位	

11

今後の予定

6月下旬 大学HPで詳細を公開

8月1日(金)12:00-13:00

第2回山形大学日本語教員養成プログラム説明会(オンライン)

8月1日~31日 日本語教員養成プログラム申し込み受付期間

12

参考資料

外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ(令和6年度一部変更)概要」(2024年6月21日決定)

厚生労働省「『外国人雇用状況』の届出状況まとめ(令和6年10月末時点)」(2025年1月31日公表)

出入国在留管理庁「令和6年末現在における在留外国人数について」(2025年3月14日公表)

文化審議会国語分科会(2021)「日本語教育の参照枠—報告」

文部科学省「登録日本語教員実践研修・養成課程コアカリキュラム」(2024年4月1日決定)

文部科学省「国内の日本語教育の概要」(2024年11月8日公表)

文部科学省「日本語教育」https://www.mext.go.jp/a_menu/01_p.htm

令和7年（2025年）6月5日

超小型人工衛星（ベニバナ・サット）プロジェクト立ち上げ！ ～「山形の産業へ」「山形に人材を」「山形を元気に」～

【本件のポイント】

- 昨年度開設の一般財団法人「森の学校」寄附講座が、山形の夢を載せ今宇宙へ。
- このプロジェクトでは、①山形の産業へ（山形の産業振興・ベンチャー育成を図る）
②山形に人材を（山形で育った人材を山形に残す・引き付ける）
③山形を元気に（山形県民・山形大学に夢と活力を与える）の3点を目標に掲げます。
- 森の学校寄附講座（ソーシャルイノベーションDX）の講義内容を実践し、社会実装論を実証するとともに、学生や関係者の好奇心及び意欲を湧き立たせることはもちろん、山形県の方々に夢を与えるとともに、この活動を通じて人材や技術のハブ（結節点）をレガシーとして創ることにより、持続的な人材育成や新たな産業の振興も狙っています。



【概要】昨年度、山形大学米沢キャンパスに開設した一般財団法人森の学校寄附講座「ソーシャルイノベーションDX」では、社会実装を前提としたものづくりの人材育成体制を整備し、大学資源（人材・知・施設等）を活用した科学的な手法による教育研究活動を通じて、社会実装のためにDX・AI・VRを自由に操れる自走型ソーシャル・エンジニアを育成することを目的とした活動を行っています。先端科学技術の講義を通じて、研究者・技術者として目線を上げ視野を広く取ることの意義を強調してきました。この度、その一環として、キューブサットと呼ばれる小型の人工衛星のプロジェクト、名付けて「ベニバナ・サット プロジェクト」を立ち上げることになりました。打ち上げは、遅くとも2028年までを予定しています。ここでは、①山形の産業へ、②山形に人材を、③山形を元気に、の3点をスローガンとして掲げ、学生はもちろんのこと地元企業との積極的な共創を図り、講義内容を実践し、社会実装論を実証するとともに、宇宙という未知の領域に踏み込むことでアクティブラーニングを通じ学生諸君の好奇心及び意欲を湧き立たせることはもちろんのこと、山形県の関係者の方々に新たな夢を与えることを狙っています。この活動を通じて、山形大学内に人材や技術のハブ（結節点）を創ることにより、山形の地で持続的な人材育成や小型衛星産業などの新たな産業展開の場とすることも意図しています。

【背景】山形大学米沢キャンパスでは、大学認定研究グループ「ナセバース」（学生・教員・社会人が身分職種・学年・学部・大学間の垣根を越え結集しメタバース等のVR技術、対話ロボットやICT技術を活用し地域のコミュニケーション支援ツールを開発する研究拠点）など、実際のシステム開発を通じたDX人材育成の環境を有していました。これらの環境において、社会実装を意識した実践教育により地域の課題に取り組むことは、地域における産業の創成及びそれを支える産業の育成へ大きく貢献でき、さらには大学資源を地域と共に維持発展させることにもつながると考えられます。このような背景のもと、昨年度、山形大学米沢キャンパスに一般財団法人森の学校寄附講座「ソーシャルイノベーションDX」を開設しました。ここでは、社会実装を前提としたものづくりの人材育成体制を整備し、大学資源（人材・知・施設等）を活用した科学的な手法による教育研究活動を通じて、社会実装のためにDX・AI・VRを自由に操れる自走型ソーシャル・エンジニアを育成することを目的としています。一方で、山形大学をはじめ本県においては、地元の教育機関で育った人材が首都圏や中京圏などに離れてしまい地元に残らないという問題がしばしば指摘されてきました。また、わが国のものづくり産業の空洞化が謳われる中で、新たな産業の振興は本県にとっても喫緊の課題であると認識しています。これらの課題を解決する手段を寄附講座として模索してまいりました結果、今回「ベニバナ・サット プロジェクト」を立ち上げることに至りました。

この寄附講座に招聘した教員は、日本の宇宙実験の黎明期から多くのプロジェクトに参画し、スペースシャトルを用いた実験や人工衛星を用いたダイヤモンドの合成実験やナノ触媒の合成実験などを手掛けてきました。宇宙実験は、以前は国の機関が数十億円規模の予算を使って行ってきましたが、超小型衛星の実用化により、より身近なものになってきました。

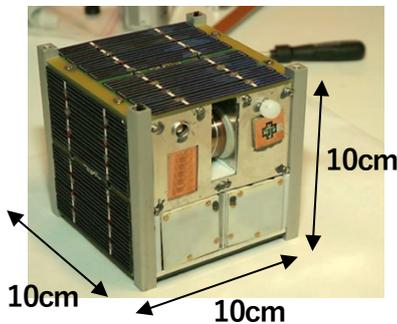
配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【ミッションの概要】 寄附講座では、この機を捉えて「ベニバナ・サット プロジェクト」を立ち上げ、寄附講座の設置期間である2028年度までに、キューブサットと呼ばれる小型衛星を設計し打ち上げることにいたしました。このプロジェクトでは、①山形の産業へ（山形の産業振興・ベンチャー育成を図る）②山形に人材を（山形で育った人材を山形に残す・引き付ける）③山形を元気に（山形県民・山形大学に夢と活力を与える）の3点を目指す目標に掲げています。具体的には、この活動を通じて、小型衛星関連産業やR&D支援産業、集積化組み込み産業などの振興を図り、将来的には、本県の特性を踏まえて、宇宙利用による農業・林業・酪農やエネルギー関連産業の高度化DX化に繋げることも狙っています。また、このプロジェクトでは、山形の児童・生徒・学生との連携も視野に入れていいます。その第一弾となる一号機では、山形大学としての独自ミッションを遂行する計画で、①技術試験・検証実験、②宇宙利用の啓蒙、③山形の産業啓発を目的として、「宇宙から山形をみる」「山形から宇宙をみる」に関連する実験を行う予定です。このミッション遂行の基本方針として、可能な限り山形県産の材料・部材・技術・ソフトを結集させ、一号機に関しては公的な資金は受けず自主的な資金で自立的な運営を心掛けることを旨としています。そのため、地元企業や学生との積極的な連携・共創を図り、創りながら学ぶアクティブラーニングの場となることを想定しています。宇宙という未知の領域に踏み込むことで、学生はじめ関係者の皆様の好奇心及び意欲を湧き立たせることはもちろんのこと、山形の方々に新たな夢と希望を与えることを期待しています。

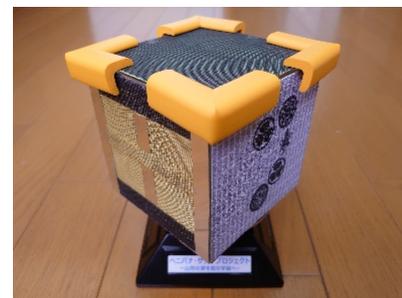
【今後の展望】 寄附講座の設置期間内（残り4年）に一号機の打ち上げ計画を完遂させる計画ですが、それ以降は山形県の重要な課題である農業やエネルギー分野への展開を期して継続的に展開できる仕組みを、この活動のレガシーとして残すことを計画しています。そのための継続的な衛星打ち上げも期待しています。山形大学内に人材や技術のハブ（結節点）を創り、オープンで継続的な活動を行うことにより、結果として山形に人材を引き付け、新たな産業振興の場となることを意図しています。

【用語説明】

キューブサット：一辺10cmの立方体を基本単位として、これを1個～3個並べた程度の大きさの超小型衛星。重量は1～4kg程度。近年の電子部品の技術革新によりこのような極めて小さな人工衛星が実現できるようになりました。



キューブサットの例
(ノルウェーのNCUBE2 (1U))



「ベニバナ・サット」のモックアップ模型
(台座の銘は「山形の夢を載せ宇宙へ」)



「ベニバナ・サット プロジェクト」
協力企業のロゴ (案)

お問い合わせ
学術研究院

亀井 信一 (寄附講座「ソーシャルイノベーション DX」)、
横山 道央 (電子デバイス工学)、原田 知親 (電子デバイス工学)
TEL : 0238-26-3742 メール : kamei@yz.yamagata-u.ac.jp, yoko@yz.yamagata-u.ac.jp,
tharada@yz.yamagata-u.ac.jp

令和7年（2025年）6月5日

地域の子どもたちの「今」を応援する 「YU★STEAMサポーター」募集のご案内

～日新製薬株式会社とアイジー工業株式会社が初のサポーターに～

【本件のポイント】

- 地域の子どもたちに多様な「知（STEAM教育）」を届ける地域共創 STEAM教育推進センター（YU★STEAM）は、寄付金によるご支援を頂ける個人並びに企業・団体の皆様の募集を開始しました。
- 協賛いただいた際には「YU★STEAMサポーター」として登録し、YU★STEAMの活動等において公表させていただきます。
- 初の「YU★STEAMサポーター」として、日新製薬株式会社とアイジー工業株式会社に協賛いただきました。



【概要】

山形大学の最先端の研究や技術、施設を活用しながら、地域の子どもたちに多様な「知（STEAM教育）」を届けることを目的として設立された山形大学地域共創 STEAM 教育推進センター（YU★STEAM）では、当センターの活動をより一層充実させ、より多くの子どもたちに質の高い STEAM 教育を提供するため、寄付金によるご支援を頂ける個人並びに企業・団体の皆様を募集します。ご賛同いただいた個人ならびに企業・団体の皆様を、地域の子どもたちの「今」を応援する「YU★STEAM サポーター」として登録し、事業のチラシや公式ホームページ、山形大学 SDGs ポータルサイトに掲載させていただきます。また、返礼として、当センターの大人気企画の「やまだいキッズラボ！」の優先予約枠を設定させていただきます。

そして、この度、初の「YU★STEAM サポーター」として、日新製薬株式会社とアイジー工業株式会社に協賛いただきました。

【趣意】

山形大学地域共創 STEAM 教育推進センター（YU★STEAM）は、山形大学の最先端の研究や技術、施設を活用しながら、地域の子どもたちに多様な「知（STEAM教育）」を直に届けることを目的として設立されました。地域社会の未来を担う子どもたちに、科学・技術・工学・芸術・数学（STEAM）の知識や体験をいま提供することで、創造力と問題解決能力を育むことを目指しています。

本センターの活動をより一層充実させ、より多くの子どもたちに質の高い STEAM 教育を提供するため、寄付金によるご支援を頂ける個人並びに企業・団体の皆様を「YU★STEAM サポーター」として登録し、YU★STEAM の活動等において公表させていただきます。

【事業内容・寄付への返礼】

本趣旨に賛同いただいた個人並びに企業・団体の皆様には、下記、山形大学基金ウェブページを通じて YU★STEAM へ寄付をお願いしております。ご寄付いただいた企業・団体名は、本センターの YU★STEAM サポーターとして、以下の方法で広報いたします。

- 事業のチラシへの企業・団体名の掲載
- YU★STEAM 公式ウェブページへの企業・団体名の掲載（下記 QR 参照）
- YU-SDGs パートナーに登録し、山形大学 SDGs ポータルサイト（YU-SDGs EmpowerStation）に企業・団体名の掲載（下記 QR 参照）

また、企業・団体様から 1 口以上の寄付を頂いた場合には、YU★STEAM で開催される事前予約制（応募者多数の場合は抽選）のイベント「やまだいキッズラボ！」にて、優先予約枠を設定させていただきます。「やまだいキッズラボ！」はキャンセル待ちが定員の 4 倍を超えることもある人気のプログラムですので、是非とも積極的にご利用ください。

【期待される成果・社会的意義】

本センターの活動は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献する事業です。特に、「質の高い教育をみんなに」

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

なに（SDG4）」や「住み続けられるまちづくりを（SDG11）」といった目標の実現に寄与し、地域全体の教育水準の向上と持続的な発展に貢献します。

また、本センターの活動を支援いただくことで、貴社・貴団体の社会貢献活動を広く地域社会に周知することができます。特に、小中学生向けの事業では、協賛として貴社・貴団体名が記載されたチラシを県内の小学生（小学生向け事業の場合）あるいは中学生（中学生向け事業の場合）の全員に配布し、保護者の皆様の目にも触れることとなります。一つの事業あたり、小学生向け事業は約 50,000 枚、中学生向け事業は約 30,000 枚のチラシが配布され、地域における貴社・貴団体の認知度向上と社会貢献活動の可視化が期待できます。また、本センターのメールリストでも各種事業の案内を配信しております。

【ご寄付の方法】

寄付は個人様 1 口 5 千円、企業・団体様 1 口 10 万円以上とし、YU★STEAM サポーターとしての登録（企業・団体名の掲載）の期間は年度単位とさせていただきます。

下記の山形大学基金ウェブページにて、寄附目的「学部等への支援」を選択し、「学部等名」に「YU★STEAM」と記載の上お申し込みください。

【税制上の優遇について】

山形大学基金への寄付金は、所得税法上の寄付控除の対象となる特定寄付金又は法人税法上の金額損金算入を認められる指定寄付金として財務大臣から指定されております（昭和 40 年大蔵省告示第 154 号）。また、個人から山形大学基金にご寄付いただいた場合、「所得控除」が適用されます。



YU★STEAM



YU-SDGs EmpowerStation



山形大学基金

～日新製薬株式会社（会社概要）～

1957 年 10 月 18 日設立。医療への貢献を使命とし、医療関係者に信頼できる医薬品を供給するために、技術を学び、最新設備を導入し、製剤設計、品質管理、品質保証に真剣に取り組むことで、今必要とされているジェネリック医薬品や製造を受託する医薬品を供給し、医療に貢献する企業活動を展開している。

～アイジー工業株式会社（会社概要）～

1970 年 4 月 1 日設立。人々の暮らしや環境、地域社会がより良いものとなるように、住宅向け外壁材や屋根材、鉄骨造非住宅向け外壁材等の金属製の外装材を専門に、豊かな発想力とこれまでに培った確かな技術力で、お客様に満足いただける商品を生み出す企業活動を展開している。

※用語解説

1. スチーム (STEAM) : Science (科学)、Technology (技術)、Engineering(工学)、Art (芸術)、Mathematics (数学) の頭文字を取った教育概念。STEAM 分野を統合的に学び、実社会での問題発見・課題解決に活かしていくための分野横断的な教育です。



お問い合わせ

(山形大学地域共創 STEAM 教育推進センターについて)

地域共創 STEAM 教育推進センター 専任教員 安達 茜

TEL 023-628-4506 メール adachi0014@cc.yamagata-u.ac.jp

(山形大学基金について)

山形大学総務部社会共創推進事務室（山形大学基金担当） 樋口、田苗、長沼

TEL 023-628-4280,4497 メール yu-kikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

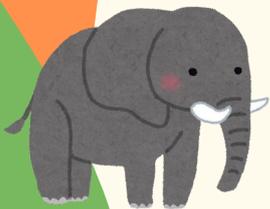
小学1~3年生

どうぶつについて してる？



ブロックでどうぶつをつかって どうぶつクイズにちょうせんしよう！

日時：2025年7月12日（土） 9:30~10:30
対象：小学1~3年生（保護者参加必須）
定員：12名（応募者多数の場合は抽選）
受付期間：6月19日12:00~7月3日12:00



参加無料！

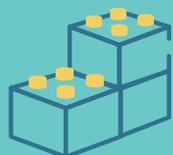
やまだ1キッズロボ！ 2025 夏編

小学4~6年生

君は新しい発明ができるかな？！



ブロックをプログラミングで動かそう！



- 第1回 色センサーを動かして物語を作ろう！
- 第2回 速く動くロボットを作るのは誰だ…？！
- 第3回 なんでもつかむロボットの手を作ろう！

日時：2025年6月15日、22日、29日（日） 9:30~11:30
対象：小学4~6年生（保護者観覧可能）
定員：12名（応募者多数の場合は抽選）
受付期間：5月22日12:00~6月5日12:00
1度の予約で3日間分です（全日程のご参加をお願いいたします）



開催場所：山形大学小白川キャンパス
講師：安達茜（YU★STEAM）

公式キャラクター
虹のワック

申込はこちら！

ご参加にあたって

- ・公式HPよりお申込みください。
- ・抽選結果は受付終了後2~3日以内にメールでお送りします。
- ・駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。ただし、送迎に関しては山形大学のロータリーに一時停車可能です。

山形大学地域共創STEAM教育推進センター（YU★STEAM）

TEL: 023-628-4506（平日9時~17時） mail: yu-steam@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
HP: https://yu-steam.amebaownd.com/



地域の子どもたちの「今」を応援する 「YU★STEAMサポーター」募集のご案内

～日新製薬株式会社とアイジー工業株式会社が初のサポーターに～



山形大学地域共創STEAM教育推進センター（YU★STEAM）

公式キャラクター
『虹のワック』



■ 事業内容

- ・子どもたちに多様な「知（STEAM教育）」を届ける当センターでは、**寄付金によるご支援**をいただける個人・企業・団体の皆様を募集します
- ・協賛いただいた際には「**YU★STEAMサポーター**」としてYU★STEAMの活動等において公表させていただきます

…公式HP、山形大学SDGsポータルサイト、イベントチラシ（県全域の小中学生へ配布）

■ 寄付への返礼

- ・企業や団体様からのご寄付には、大人気イベント「やまだいキッズラボ！」の優先予約枠をご提供しています



『やまだいキッズラボ！2025夏編』を開催！

Science (科学)

Technology (技術)

Engineering (工学)

Arts (芸術・教養)

Mathematics (数学)

複合的に学ぶことで
将来役に立つ力が
自然と身に着く！

■ STEAM教育が盛り込まれている！

■ 体験型のプログラム！

■ 大学の知や技術をフル活用！

小学1~3年生 どうぶつについて知ってる?
ブロックでどうぶつをつくって
どうぶつクイズに挑戦しよう!

日時: 2025年7月12日(土) 9:30~10:30
対象: 小学1~3年生(保護者参加必須)
定員: 12名(応募者多数の場合は抽選)
受付期間: 6月19日12:00~7月3日12:00

参加無料!

やまだいキッズラボ!
2025 夏編

小学4~6年生 君は新しい発明ができるかな?
ブロックをプログラミングで動かそう!

第1回 色センサーを動かして物語を作ろう!
第2回 速く動くロボットを作るのは誰だ...?!
第3回 なんでもつかむロボットの手を作ろう!

日時: 2025年6月15日, 22日, 29日(日) 9:30~11:30
対象: 小学4~6年生(保護者観覧可能)
定員: 12名(応募者多数の場合は抽選)
受付期間: 5月22日12:00~6月5日12:00
1度の予約で3日間分です(全日程のご参加をお願いします)

3日間連続のプログラミング!
大学で7年生まで!

開催場所: 山形大学小白川キャンパス
講師: 安達茜 (YU*STEAM)

公式キャラクター
虹のワック

ご参加にあたって
・公式HPよりお申し込みください。
・抽選結果は受付終了後2~3日以内にメールでお送りします。
・駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。
ただし、送迎に関しては山形大学のロータリーに一時停車可能です。

山形大学地域共創STEAM教育推進センター (YU*STEAM)
TEL: 023-628-4506 (平日9時~17時) mail: yu-steam@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
HP: https://yu-steam.amebaownd.com/

申込はこちら!





■ 期待される成果・社会的意義

- ・SDGsの目標「質の高い教育をみんなに」や「住み続けられるまちづくりを」の実現に寄与し、地域全体の教育水準の向上と持続的な発展に貢献します
- ・ご支援いただくことで、広く地域社会に、ご寄付いただいた皆様の認知度向上と社会貢献活動の可視化が期待できます

…一つのイベントあたり、小学生向けでは約50,000枚、中学生向けは約30,000枚のチラシ配布

■ 税制上の優遇について

- ・山形大学への寄付金は、所得税法上の寄付控除の対象となります
- ・個人様からご寄付いただいた場合も「所得控除」が適用されます



■ ご寄付の方法



- ・ 個人様1口5千円、企業・団体様1口10万円以上とし
YU★STEAMサポーターとしての登録の期間は年度単位とさせていただきます
- ・ 山形大学基金ウェブページにて、寄付目的「学部等への支援」を選択し、
「学部等名」に「YU★STEAM」と記載の上お申し込みください



YU★STEAM



YU-SDGs EmpowerStation



山形大学基金



初の「YU★STEAMサポーター」

日新製薬株式会社

アイジー工業株式会社



令和7年（2025年）6月5日

2025年大阪・関西万博の展示に研究成果が導入

～経済産業省「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業」の一環での実証、
「もっとグッスリ(More IoT for good sleep)」に眠りやすい照明や香りが採用～

【本件のポイント】

- 2025年大阪・関西万博における経済産業省「PHR連携が生み出す、新時代のウェルネス体験」内の展示にて山形大学Good Sleep（ぐっすり）コンソーシアムの研究成果が採用されました
- 個人の健康記録に基づき快適な睡眠を誘導するサービスの中に照明と香りの研究成果が導入されます
- 時間的にゆらぐ照明とスキの香りのリラックス効果の実証結果が活用されます

【概要】

2025年大阪・関西万博の経済産業省エリアでの「もっとグッスリ(More IoT for good sleep)」における展示に、学術研究院・山内教授の研究成果が導入されます。個人に合わせた快適な睡眠を誘導するサービスの中で、照明と香りに関する制御技術です。山形大学主宰のGood Sleepコンソーシアムの成果の一つとして、山内教授の研究では、リラックスできる照明として時間的ゆらぎを有する照明、眠りやすい香りとう覚醒する香りとしてそれぞれスキとローズマリーの有効性を示してきました。万博期間中に、部屋を模した睡眠ブースでの体験展示が行われますが、そのブースでの快適な眠りへいざなう照明や香りとして研究成果が導入されることになりました。

【背景】

「もっとグッスリ (More IoT for good sleep)」は、個人の健康記録 (PHR) を活用し、株式会社LIXILの「Life Assist2アプリ」を通じて入浴～入眠～睡眠中～起床時という一連の流れの中で、適切なタイミングで住宅機器コントロールや行動リコメンドをする、個人に合わせた快適な睡眠を誘導するサービスです。このサービスは、経済産業省の「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業(情報連携基盤を介したPHRユースケースの創出に向けた課題・論点整理等調査実証事業)」の一環として創出されたもので、大阪・関西万博ではEXPOメッセ「WASSE」にて6月21日～29日の期間限定で体験展示します。部屋を模した睡眠ブース内のベッドで横たわり、短時間の疑似的な睡眠体験を楽しむことが可能です。この展示に対し、山形大学は Good Sleepコンソーシアム参加企業である株式会社LIXILからの委託を受け、当大学の研究結果をサービス内容に適用することで協力しました。

【研究手法・研究成果】

山形大学では2023年から「Good Sleep コンソーシアム」を主宰し、睡眠課題に対してさまざまな生活の場面からアプローチしております。中でも、「光と睡眠」「香りと睡眠」からの切り口ではリラックス効果を与える光や香りの実証実験を行ってまいりました。光として、時間的ゆらぎを有する照明に着目し、定常光との比較でリラックス効果が高まる照明条件を心理的・生理的応答により求めたところ、適切なゆらぎ幅をもつ1/fゆらぎを有する照明で、リラックス効果に有効な副交感神経活動が高くなることがわかりました。また、リラックス効果と覚醒効果を持つ香りとして、それぞれスキとローズマリー精油に着目し、こちらも心理的・生理的応答を用いて効果を求めたところ、両者の有効性を示すことができました。それぞれ入眠時・覚醒時に寝室に香らせることで心地よい眠りと目覚めを与えることが期待できます。

【今後の展望】

ぐっすりコンソーシアムの「光」と「香り」研究の成果を社会発信できることとなりましたが、さらに研究成果を積み上げて、さまざまな睡眠課題の解決に向けた提案を引き続きできるように頑張っております。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

お問い合わせ

学術研究院教授（視覚情報処理）山内 泰樹

TEL 0238-26-3346 メール yamauchi@yz.yamagata-u.ac.jp

令和7年(2025年)6月5日

山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 山形大学オープンキャンパス 2025 の開催について

山形大学オープンキャンパス 2025 の開催をお知らせします。2025 年度のオープンキャンパスは、対面の開催を予定しています。

時間・内容等の詳細や申込方法については、近日中に受験生向けナビゲーションサイト「やまがた大学ナビ！」のオープンキャンパスページや、山形大学公式 LINE でお知らせします。

2. 小学校理科の教育プログラム－スキルアップ講座－を実施します

山形大学地域教育文化学部が、教員の養成・研修の一体的事業を実施します。この教員の養成・研修の一体的事業とは、教員養成のための大学授業の一部を現職教員の研修の機会として、教員研修のための教育委員会の講座の一部を教員志望の学生の学び機会として、お互いに共有するものです。

3. 山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー『介護と仕事、両立のヒント～未来の自分と大切な人のために～』を開催します

本セミナーでは、「もしものとき」に備え、介護と仕事を両立するために必要な知識、そして今からできる準備や対応策について解説します。

4. 有機薄膜・ペロブスカイト太陽電池に関する書籍の発刊について～本学教員が監修や執筆に協力、サステナブルエレクトロニクス実現へ～

株式会社エヌ・ティー・エスから、書籍：「有機薄膜太陽電池・ペロブスカイト太陽電池の開発最前線」が2025年5月14日に発刊されました（B5版636頁）。

本書籍は、本学の佐野健志教授と、産総研エネルギー・環境領域長補佐・吉田郵司氏の両名が監修にあたり、山形大学教員5名、プロジェクト研究員1名含む計80名の国内外トップ研究者による最新技術の解説書です。

5. 宇宙探査機の太陽光反射性能に対するダスト付着の影響を解明～地上実験と理論計算によりラジエーターに付着したダストの影響を定量的に把握～

工学部の江目教授の研究成果の発表です。小惑星リュウグウへの2度目のタッチダウンで予想以上に大規模なダストが舞い上がり、そのダストが探査機のラジエーターに付着し、性能低下の懸念が生じました。

山形大学の研究チームが模擬ダストをラジエーター表面に付着させ、分光反射率測定と解析を行い、太陽光反射性能の低下がダストによる反射率変化に起因することを明らかにしました。

新たな評価指標を用いてダスト量と性能劣化の関係を定量化し、この知見が惑星探査機の熱設計やダスト耐性向上に役立つ技術基盤となることが期待されています。

令和7年（2025年）6月5日

山形大学オープンキャンパス2025の開催について

【本件のポイント】

- 山形大学オープンキャンパス2025の開催が近づいてまいりましたので再度お知らせします。
- 2025年度のオープンキャンパスは、対面で開催することを予定しています。
- 運営上の都合により、一部キャンパス・プログラムについては人数制限を設ける、または事前参加登録が必要となる場合があります。

【概要】

山形大学オープンキャンパス 2025 の開催をお知らせします。2025 年度のオープンキャンパスは、対面での開催を予定しています。

ただし一部のキャンパスやプログラムについては、運営上の理由から人数制限を設ける、または事前申込制によって実施する場合があります。

時間・内容等の詳細や申込方法については、近日中に受験生向けナビゲーションサイト「やまがた大学ナビ！」のオープンキャンパスページや、山形大学公式 LINE でお知らせします。

過去には学部学科等説明や模擬講義、キャンパスツアー、在学生との交流会、研究室見学、保護者向け説明会等、様々な内容のイベントを実施しています。

【山形大学オープンキャンパス 2025】

●開催日・キャンパス

人文社会科学部	7月26日（土）	小白川キャンパス
地域教育文化学部	7月26日（土）	小白川キャンパス
理学部	7月26日（土）	小白川キャンパス
社会共創デジタル学環	7月26日（土）	小白川キャンパス
医学部	7月26日（土）	飯田キャンパス
工学部	8月2日（土）	米沢キャンパス
農学部	7月27日（日）	鶴岡キャンパス

●詳細・申込

後日、本学受験生向けナビゲーションサイト「やまがた大学ナビ！」でお知らせします。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/enroll/oc/>

受験生のための山形大学ナビゲーションサイト

やまがた大学ナビ!

「やまがた大学ナビ！」では、常時オンデマンド配信しているコンテンツもありますので、ぜひご覧ください。



山形大学でお待ちしております!

山形大学 OPEN CAMPUS 2025

小白川 キャンパス 7/26 (土) 飯田 キャンパス 7/26 (土) 鶴岡 キャンパス 7/27 (日) 米沢 キャンパス 8/2 (土)

イベントスケジュール「やまがた大学ナビ」でCHECK!
LINE でお知らせ中!

山形大学 023-628-4062

お問い合わせ

エンrollment・マネジメント部入試課

TEL 023-628-4062・4063

メール yu-enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学でお待ちしています!

山形大学

OPEN CAMPUS



小白川

キャンパス

人文社会科学部

地域教育文化学部[※]

理学部

社会共創デジタル学環

※令和8年4月から
教育学部の設置を構想しています。

7/26
sat.

飯田

キャンパス

医学部

7/26
sat.

鶴岡

キャンパス

農学部

7/27
sun.

米沢

キャンパス

工学部

8/2
sat.

イベントスケジュールや「やまがた大学ナビ!」でCHECK!

※原則として事前の参加申し込みが必要となります。また、一部キャンパスやプログラムについては
運営上の理由から人数制限を設ける場合があります。詳細は、やまがた大学ナビ!をご覧ください。



LINE
友だち募集中!

オープンキャンパスに関する
最新情報をお届けします。



令和7年(2025年)6月5日

小学校理科の教育プログラム－スキルアップ講座－を実施します

【本件のポイント】

- 山形大学地域教育文化学部が、教員の養成・研修の一体的事業を実施します。この教員の養成・研修の一体的事業とは、教員養成のための大学授業の一部を現職教員の研修の機会として、教員研修のための教育委員会の講座の一部を教員志望の学生の学び機会として、お互いに共有するものである。
- 本事業では、県内の小学校・中学校(理科)教員および小学校教員免許状取得を目指す学生を対象に、別紙のとおり、小学校理科の授業力を向上させるための「小学校理科の教育プログラム－スキルアップ講座－」(主催 山形大学地域教育文化学部、後援 山形県教育委員会)を実施することとした。
- 本事業の実施により、山形大学が理科に強い小学校教員の養成する大学となることが期待できる。



【概要】

山形大学地域教育文化学部では、教員の養成・研修の一体的事業として、山形大学と山形県教育センター(山形県教育委員会)および山形市総合学習センター(山形市教育委員会)が協力して、小学校理科の授業を実施するために必要な資質・能力を身に付けることを応援するため、県内の小学校・中学校(理科)教員および小学校教員免許状取得を目指す学生を対象に、別紙(案内)のとおり、小学校理科の授業力を向上させるための教育プログラム－スキルアップ講座－を実施することとしました。

この教員の養成・研修の一体的事業は、平成30年度から開始したもので、今年度で8年目をむかえます。

本事業の実施により、県内小・学校教員の理科に関する資質・能力の向上に寄与できるとともに、山形大学が理科に強い小学校教員の養成する大学となることが期待できます。

【講座内容】

実施日時：令和7年(2025年)8月5日(水)～

実施場所：山形大学小白川キャンパス、山形市総合学習センター

実施内容：小学校理科の授業力向上に関する様々な活動を実施します。

- ・理科の授業づくり
- ・理科の教材研究
- ・理科室の管理・運営
- ・理科の観察と実験 など

【申込方法など】 別紙のとおり、Eメールにてお申し込みください。
参加費 無料

お問い合わせ

学術研究院准教授(教育学)大学院教育実践研究科主担当(鈴木宏昭)

TEL 023-628-4427 メール hsuzuki@e.yamagata-u.ac.jp

介護と仕事、 両立のヒント

未来の自分と大切な人のために



令和7年 **7月1日(火)** 14:40~16:10

突然やってくる家族の介護。

仕事との両立をどうすればよいのか、不安や疑問を抱える方も少なくありません。

本セミナーでは、「もしものとき」に備え、介護と仕事を両立するために必要な知識、

そして今からできる準備や対応策をわかりやすくお伝えします。

また、近年注目される「ヤングケアラー」についても、少しだけご紹介します。

「知らなかった」で後悔しないために、両立のヒントを一緒に探してみませんか?



講師

東海林 かおり 氏

一般社団法人 山形県地域包括支援センター等協議会 理事

約30年間、在宅介護支援センターや地域包括支援センター等の在宅の高齢者の相談対応の仕事に従事。現在は、山形県地域包括支援センター等協議会の理事として県内各センターの支援を行うとともに、山形県地域包括ケア総合推進センターの推進員、社会福祉法人の理事、地域密着型サービス外部評価機関の調査員として、本県の地域包括支援に取り組んでいる。

<山形県地域包括支援センター等協議会について>

平成20年に発足し、持続可能な組織体制を目指して、令和4年「一般社団法人山形県地域包括支援センター等協議会」として新たな活動を開始する。地域の課題が多様多様化・複雑化しており、高齢者のみならず多世代にわたる地域課題の解決が求められており、協議会は、支援センターの他、介護サービス事業所や企業等の会員から構成されている。地域包括ケアの深化、地域共生社会の実現による県民の福祉推進に努めている。

申込方法

下記URL、または右記二次元コードからお申し込みください。

申し込みフォームが開きます。

お申込みいただいた方には前日までに参加用のURLをお知らせいたします。

<https://forms.office.com/r/cLkTH9pziW>



申込締切

6月24日(火)までにお申し込みください。

お問合せ

山形大学ダイバーシティ推進室 TEL. 023-628-4939

主催/国立大学法人山形大学

共催/やまがた社会共創プラットフォーム高等教育機関連携部門「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック南東北会議研修会を兼ねています

令和7年（2025年）6月5日

有機薄膜・ペロブスカイト太陽電池に関する書籍の発刊について ～本学教員が監修や執筆に協力、サステナブルエレクトロニクス実現へ～

【本件のポイント】

- 株式会社エヌ・ティー・エスから、書籍：「有機薄膜太陽電池・ペロブスカイト太陽電池の開発最前線」が2025年5月に発刊されました（B5判636頁・オールカラー）
- 本書籍は、本学の佐野健志教授と、産総研エネルギー・環境領域長補佐・吉田郵司氏の両名が監修にあたり、山形大学教員5名、プロジェクト研究員1名含む計80名の国内外トップ研究者による最新技術の解説書です
- 山形大学では、循環型社会実現への寄与を目指し、「サステナブルエレクトロニクス」分野の研究開発を進めています。今後も国内外の研究者とのオープンイノベーションや産学連携を通じて実用化を進めていきます

【概要】

株式会社エヌ・ティー・エスから、書籍：「有機薄膜太陽電池・ペロブスカイト太陽電池の開発最前線」が2025年5月14日に発刊されました。（企画・出版：（株）エヌ・ティー・エス（本社：東京、理工系専門書出版）、監修：山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター教授 佐野健志、産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 領域長補佐 吉田郵司氏）本書籍は、次世代太陽電池として期待されている、有機薄膜太陽電池およびペロブスカイト太陽電池の最新技術に関する、国内外のトップ研究者80名による解説書です。本学からは、佐野教授（序論、材料技術）の他、東原知哉教授（ブロック共重合体）、栗原正人教授・石崎学准教授（カーボンナノチューブ）、硯里善幸教授（塗布型ハイバリア構造）、奥山豊プロジェクト研究員（シースルー太陽電池）が執筆に関わりました。

山形大学は、2009年頃より有機太陽電池分野の研究開発に注力しており、塗布型材料やデバイス開発など、本学の特徴を活かした研究で、本分野の進展に貢献してきました。有機薄膜太陽電池とペロブスカイト太陽電池は、小面積での変換効率がいずれも20%を超え、塗布型で発電層を形成できること、従来のシリコン太陽電池パネルに比べて大幅に軽量化でき、フレキシブル化やシースルー化などが可能であることなどから、これまで設置が難しかった壁や窓など未利用領域への応用が想定されています。エネルギー基本計画では、再生可能エネルギーの主力電源化や太陽光の利用拡大がうたわれており、本書籍が、国内の研究者、国研および企業の連携促進、次世代太陽電池の実用化加速、サステナブルエレクトロニクス実現への一助となることを期待します。

【書籍情報】

「有機薄膜太陽電池・ペロブスカイト太陽電池の開発最前線」

出版社：株式会社エヌ・ティー・エス

監修：佐野健志、吉田郵司

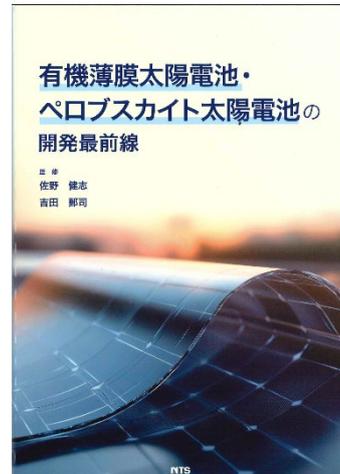
体裁：B5判636頁・オールカラー

ISBN：978-4-86043-951-4

C-コード：C3043

定価：65,000円＋税

発刊日：2025年5月



お問い合わせ

学術研究院教授（有機エレクトロニクスイノベーションセンター）佐野 健志

TEL 0238-26-3586 メール takeshi.sano@yz.yamagata-u.ac.jp

令和7年（2025年）6月5日

宇宙探査機の太陽光反射性能に対するダスト付着の影響を解明 ～地上実験と理論計算によりラジエーターに付着したダストの影響を定量的に把握～

【本件のポイント】

- 小惑星リュウグウへの2度目のタッチダウンで予想以上に大規模なダストが舞い上がり、そのダストが探査機のラジエーターに付着し、性能低下の懸念が生じました。
- 山形大学の研究チームが模擬ダストをラジエーター表面に付着させ、分光反射率測定と解析を行い、太陽光反射性能の低下がダストによる反射率変化に起因することを明らかにしました。
- 新たな評価指標を用いてダスト量と性能劣化の関係を定量化し、この知見が惑星探査機の熱設計やダスト耐性向上に役立つ技術基盤となることが期待されています。



【概要】

はやぶさ2等の惑星探査機において、惑星サンプルを採取する方法として、惑星表面接近時に探査機から惑星表面に弾丸を発射し、その衝突によって舞い上がったサンプルを採取します（タッチダウン）。2019年7月11日（日本時間）、「はやぶさ2」が小惑星リュウグウに2度目のタッチダウンを行った際に、タッチダウンの様子を撮影しました。撮影された動画から、当初予想していたよりも大規模なダストの舞い上がりが確認され、舞い上がったダストが放熱面（ラジエーター）に付着し、性能に影響を与える可能性が懸念されました。ラジエーターは太陽光を反射すると同時に、探査機内部の熱を外の空間に熱放射する機能を担っています。

山形大学大学院理工学研究科 機械システム工学専攻の江目宏樹教授、林崇雅氏（当時：学士課程）と海野高史氏（当時：修士課程）は、地上実験と可視光・近赤外分光測定、さらにふく射輸送理論解析を組み合わせ、放熱面に模擬ダストを付着させた際の太陽光反射性能への影響を詳細に評価しました。

本研究では、異なる種類・濃度の模擬ダストを簡易ラジエーター表面に付着させ、分光反射率を測定しました。得られた結果をもとに、太陽光反射性能低下の主因がダストによる分光反射率の変化であることを明らかにしました。また、新たに提案した評価指標を用いることで、付着ダスト量と性能劣化の関係を定量的に捉えることにも成功しました。

この成果は、今後の惑星探査機における熱設計や、ラジエーター表面のダスト耐性向上に資する知見を提供するものであり、過酷な宇宙環境下での長期運用を支える技術的基盤となることが期待されます。

本研究成果は、2025年5月27日付で熱工学の実務的な問題解決に焦点を当てた国際専門誌 Case Studies in Thermal Engineering に掲載されました。

DOI：<https://doi.org/10.1016/j.csite.2025.106296>

※用語解説

1. ダスト：天体の表面に見られる岩石由来の粒子やかかけら
2. 月砂（レゴリス）：月など大気のない固体天体の表面に存在するダスト堆積層
3. 分光反射率：物体や材料が特定の波長の光に対してどれだけの割合の光を反射するかを示す指標

【参考情報】

本研究の先行研究の成果として、ダストがラジエーターの熱放射性能に与える影響については、2023年8月8日付で宇宙技術の専門誌 Acta Astronautica に掲載され（DOI：<https://doi.org/10.1016/j.actaastro.2023.07.033>）、2023年10月5日の学長定例記者会見にて報告しております。

お問い合わせ

山形大学学術研究院 教授 江目宏樹（大学院理工学研究科／機械システム工学）
TEL 023-626-3103 メール gonome@yz.yamagata-u.ac.jp